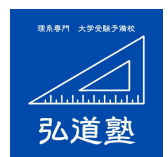


保護者世代と今の推薦制度の違い

— 1990年代の推薦入試と現在の 学校推薦型・総合型選抜は何が違うのか —



理系専門 大学受験予備校 弘道塾
TEL : 050-3199-1755

はじめに

大学入試における推薦制度は、この30年で大きく変化しました。

かつての推薦入試は、

- 一部の生徒が使う特別な制度
- 一般入試の補助的なルート
- 評定平均や面接が中心

という位置づけでした。しかし現在では、

- 私立大学では半数以上が推薦系選抜を利用
- 推薦は「特別」ではなく主要な入試方式の一つ
- 学力・活動実績・志望理由・面接などを総合的に評価

となり、推薦入試は「特殊なルート」から、現在では多くの受験生が検討する主要な入試方式の一つへと変化しています。

参考：文部科学省「国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1414952_00009.html

現在の推薦制度は、単に「早く進路が決まる制度」ではなく、
学力・意欲・活動・将来像まで含めて評価される現代型の入試です。

※本資料では、保護者様に分かりやすいように「推薦入試」という表現も使用していますが、現在の大学入試では主に「学校推薦型選抜」「総合型選抜」という名称が用いられています。

1990年代と現在の推薦制度の違い

まずは保護者世代（＝1990年代）と現在の受験生（＝2020年以降）で、入試制度がどう変わったのか比較してみます。2021年度入試からの制度改革に伴い、名称が見直されましたが、中身も大きく変化しています。

■比較表：1990年代 vs 2020年以降

比較項目	1990年代（保護者世代）	2020年以降（現在の受験生）
制度名称	推薦入試、公募推薦、指定校推薦、AO入試	学校推薦型選抜、総合型選抜
制度の位置づけ	一部の生徒が使うサブ的制度	多くの受験生が使う主要な制度
主な対象	評定が高い生徒、学校推薦を取れる生徒	評定に加え、活動実績や志望理由を準備できる生徒
評価の中心	評定平均、面接、小論文	評定、志望理由書、活動報告、面接、小論文、口頭試問、共通テスト等
学力評価	免除されることも多かった	何らかの形で学力評価が求められる
準備内容	定期テストを頑張って評定を取る	評定＋探究活動＋面接＋小論文＋出願書類の準備
出願時期の感覚	秋以降に動く	高3の早い時期から年内入試を前提に準備する
世間のイメージ	「早く終わる」「逃げ道」と見られることもあった	「年内入試」として広く一般化、戦略的に使う制度
入試戦略上の扱い	一般入試が本番	推薦・総合型も含めた複線的な戦略が主流

かつては「評定平均（内申点）」が非常に重要でしたが、現在では学力（評定平均）に加えて、意欲・経験・表現力も見る－多面的な評価軸のある方式へと変化しています。

現在の推薦制度の仕組みと難易度の実情

現在、多くの受験生が年内に進学先を決める「年内入試」を意識し、早い段階から準備を進めています。ここでは、現在の主な2つの制度の仕組みと、実質的な難易度について紹介いたします。

1. 学校推薦型選抜（≡ 旧推薦入試）

出身高校の校長先生からの推薦を必要とする制度です。
大きく分けて2つの種類が存在します。

- 指定校制推薦（合格までのハードル：低～中）
大学が特定の高校に対して推薦枠を指定する方式です。高校内での成績基準（評定平均）を満たし、校内選考を勝ち抜く必要があります。枠を得るには定期テスト、提出物、授業態度などを積み重ねる必要があります。校内競争は以前より激しくなっています。
- 公募制推薦（合格までのハードル：中）
大学が定める出願条件（評定平均や資格など）を満たせば、全国どの高校からでも出願できる方式です。指定校制に比べて出願のハードルは下がりますが、その分全国の受験生がライバルとなるため競争が激しくなり、実質的な合格難易度は高くなります。

2. 総合型選抜（≡ 旧 AO入試）

大学が求める人物像と受験生の意欲・適性の合致を評価する制度で、校長推薦は不要な場合が多くなっています。

保護者様の中には「AO入試＝自己アピール中心で簡単」という印象を持つ方もいますが、それは必ずしも正しい認識ではありません。実際には志望理由書の質、活動実績、小論文、面接での評価などが厳しく見られ、その準備はかなり重くなる入試です。

私立大学を中心とした総合型選抜は、実質的に以下の2つのパターンに分かれます。

- 「選抜型」の選考（合格までのハードル：高）
主に難関私立で採用される方式です。書類審査の基準が非常に厳しく、高い基礎学力に加えて、傑出した課外活動実績や高度な探究学習の成果などが厳格に問われます。
- 「対話型」の選考（合格までのハードル：低～中）
地方の私立大学や中堅大学で多く見られる方式です。複数回の事前面談やセミナーを通じて、マッチングを図ります。
面談を通じて出願許可が得られれば、合格につながりやすい傾向があります。

3. 共通テストの有無と、大学レベルによる違い

国公立大学を中心とする一部の選抜では、最終的な学力担保として「大学入学共通テスト」の受験が義務付けられます。

- 共通テストを課す場合（合格までのハードル：極めて高）
書類審査や面接といった独自の推薦対策に加えて、6教科8科目など広範な学力試験での高得点獲得が求められます。一般選抜に向けた受験勉強との高度な両立が必須となるため、難易度は跳ね上がります。
- 共通テストを課さない場合（合格までのハードル：中～高）
年内に合格が決定することが多い方式です。学力試験がない分、小論文、プレゼンテーション、グループディスカッションなど、大学独自の選考課題の比重が大きくなり、これらに特化した訓練が可否を分けます。

4. 国公立・私立と大学のレベルによる違い

国公立/私立と大学のレベルによっても、難易度は違いが見られます。

A. 国公立大学の厳しさ

国公立大学の学校推薦型・総合型選抜は一般的には難関です。学校推薦型選抜では「評定平均4.0以上」といった厳しい出願条件が設けられることもあり、募集人員もごくわずかです。1校からの出願人数が制限されることもあり、その場合は学内選抜が行われます。また、総合型選抜においては既卒生の出願を認めるなど入り口を広げているケースもありますが、その分、口頭試問や多段階選抜といった厳格な選考が行われます。

B. 私立大学の二極化傾向

私立大学の難易度は、大学のレベルによって二極化しています。上位私立大学の学校推薦型・総合型選抜には、全国から優秀な受験生が殺到し、倍率が数倍に達することも珍しくありません。一般選抜の「逃げ道」には決してならず、圧倒的な準備が必要です。一方で、定員確保を課題とする中堅以下の私立大学では、出願基準が緩やかに設定されているケースが多く、意欲や人物評価を重視した選考が行われるため、比較的合格を得やすい状況にあります。

「推薦や総合型を利用すれば、年内に楽に合格できる」という固定観念は非常に危険です。同一の「総合型選抜」という名称であっても、志望校が難関国公立大学なのか、中堅私立大学なのかによって、求められる学力も準備に要する期間も全く異なります。

受験生は、高校1・2年次から日々の学習に励み高い評定平均を維持するとともに、自身の目指す大学がどのような選抜方式・評価基準を採用しているのか、最新の募集要項を早期に確認し、戦略的な準備を進めることが不可欠です。

最後に－保護者世代と現在の受験生の「ギャップ」を埋めるために
現在、進路の現場で起こりやすいのが、保護者と子どもの認識のズレです。

保護者世代の受験観

- 大学受験は一般入試が本番
- 推薦は一般入試より楽
- 推薦なんて「逃げ」ではないのか

今の受験生にとっての現実

- 推薦は普通に使う主要な制度
- 一般入試だけに絞るのはむしろ不利な場合もある

このズレを放置したままでは、親子の意見が衝突してしまいます。

保護者の皆様の経験はとても大切でお子様に伝えるべき事ですが、現在の受験制度は当時と大きく異なるのも事実です。「今の推薦制度は、昔の推薦入試とは別物であり、現代の主要な受験戦略の一つである」ということをぜひご理解いただき、「自分の頃の常識」だけで判断するのではなく、親子で最新の入試制度に対する認識をアップデート（共有）することが、納得のいく進路選択への第一歩となります。

こんな悩みを抱えていませんか？

- ✓ 勉強はやっているけど成績が伸びない・・・
- ✓ 自分に合った勉強法が知りたい・・・
- ✓ 勉強の計画だけでなく実行までサポートして欲しい・・・



その悩み、大学受験のプロである弘道塾にお任せください!!

【弘道塾の3つの特長】

1. プロによるマンツーマン直接指導

元大手予備校校長の塾長が、数学・物理・化学を個別に直接指導。

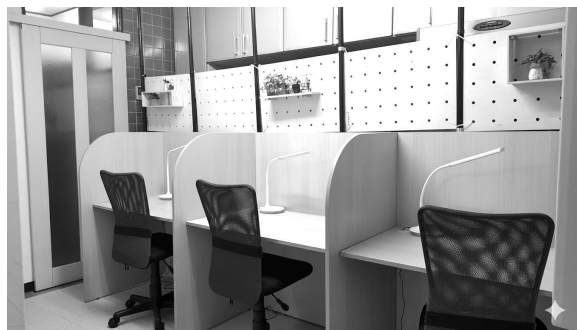
当塾は実力不問、一人ひとりの状況に合わせたスタートで、効率よく実力を伸ばします。

2. 将来を見据えた進路指導

単なる偏差値評価ではなく、生徒が将来やりたいことを見据え、医学・理・工・農・薬学部など、様々な「いきたい大学」への合格を全力でサポートします。

3. 集中できる安心・快適な環境

明るく開放的な自習専用のスペースいつでも気軽に質問・相談が可能です。駅から徒歩8分の好立地で、安全面も心配ありません。



【さらに充実のサポート】

- ✓ 教室見学は随時受付けております。
(保護者様もご同伴いただけます)
- ✓ 合格体験記を Instagram にて公開中
→ @oyama.kodojuku
- ✓ 進路相談に特に強み
(医学部・薬学部志望の方も多数相談)

【住所・連絡先】

住所 栃木県小山市駅東通り 1-7-22 海老沼ビル 2F

電話 050-3199-1755

メール kodojuku.master@gmail.com

アクセス JR 小山駅東口から徒歩8分